

司法試験

10人が難関突破

法科大学院在学学生2人も

2023年の司法試験、法科大学院を修了する結果が11月8日、発表された。本学法科大学院の修了生及び法科大学院3年次生から10人が合格した。司法試験はこれまで、

- 都合によりお写真は掲載致しません
- 宇野裕樹人さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 松田起奈さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 川村鎌三さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 水嶋恭一さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 八幡隼人さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 佐々木貢さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 福本拓真さん
- 都合によりお写真は掲載致しません
- 坂野琢郎さん

2004年の法科大学院設置以来、司法試験合格者は総計200人を超えた。

司法試験全体の合格率は45・3%。在学中受験者の合格率は59・5%だった。

合格者の皆さん

(カッコ内は修了年または在学年)

- 松田 起奈さん(令5)
- 宇野裕樹人さん(令5)
- 水嶋 恭一さん(令5)
- 川村 鎌三さん(令5)
- 八幡 隼人さん(令5)
- 佐々木 貢さん(令5)
- 福本 拓真さん(既習3年次)
- 坂野 琢郎さん(既習3年次)

在学中に合格

一年でも早く弁護士になりたいと思い、在学中に司法試験を受けました。授業と並行しての試験対策は大変でしたが、学んだ内容が新鮮なうちに本番を迎えることができたのは良かったです。

福本 拓真さん(令4法、法科既修3年次)

スピード感ある弁護士に

司法試験の受験資格が認められ、本学でも教職員が対策を模索しているようでしたが、過去問を素材に、予習、授業での質疑応答、復習・課題のサイクルがよいシナジーを生んでいました。少人数で教員と学生の距離が近いこともあり、過去の添削や、オフィスアワーでの細かなフィードバックが力になりました。

今年度から法科大学院在学学生に司法試験の受験資格が認められ、本学でも教職員が対策を模索しているようでしたが、過去問を素材に、予習、授業での質疑応答、復習・課題のサイクルがよいシナジーを生んでいました。少人数で教員と学生の距離が近いこともあり、過去の添削や、オフィスアワーでの細かなフィードバックが力になりました。

教育学会 第71回大会 教育現場の課題考える



研修会では会員と学生が意見を交わす場面も

中小高校の教員など教育の世界で活躍する卒業生らでつくる専修大学教育学会の第71回大会が11月23日、神田キャンパスで開かれた。正会員に加え、準会員である教職課程を履修する学生ら約3

20人が出席。講演会と研修会が行われ、教育現場が抱える課題について理解を深めた。講演会は、一般社団法人日本LGBT協会代表理事の清水展人さんが、学校における性同一性障害の現状を解説し、「まず

専修人の
新しい本
法論、更には法存在論等の法哲学的考察が必要である。



日高義博 著

本書は、不真正不作為犯論の理論的核心を縦糸として、不作為犯論が他の領域においてどのような理論的広がりを持つているのかという不作為犯論の横糸の問題を浮き彫りにしたものである。

本書は、刑法解釈のあり方を叙述した第1部「論説」、刑事判例の動向を分析した第2部「判例研究」、不作為犯論の基礎にある法哲学方法論・法哲学等に関する第3部「法

銅賞

ネット情報チーム

中山さん 橋本さん 関根さん

国際大学対抗プログラミングコンテスト台湾地区予選

ネットワーク情報学部 戦し、銅賞を獲得した。の学生3人が国際プログラミングコンテストに挑さん(4年次)、橋本拓弥

さん(3年次)、関根光さん(3年次)。10月22日に台湾で開催された国際大学対抗プログラミングコンテストにICPC台湾地区予選に参加。13問中7問正解の46位で銅賞を獲得した。

102チーム中、日本からの参加は唯一。緊張と焦りもあったが、中山さんと関根さんは「正確に読み解くことが重要」との姿勢で臨んだ。橋本さんは「5時間コードを書き続けてきつかったが、絶対に銅賞を取るという気持ちで踏ん張った」と振り返る。



ICPC台湾地区予選に臨んだ橋本さん、関根さん、中山さん(手前から)=10月22日

ICPCは同じ大学で3人1組のチームを作り、プログラミングと問題解決能力を競う。地区予選の制限時間は5時間で全て英語で出題される。専らチームは国内予選を経てアジア地区予選に進出。主に中山さんと関根さんが問題を読み解き、中学時代からプログラミングに取り組んできた橋本さんがプログラム

本学は国内予選が始まった1998年から参加。当時から学生を指導している松永賢次ネットワーク情報学部教授は、「競技プログラミングはチームで協力し、スピートをマナジメントすることが求められる」と語る。昨年、10年ぶりに国内予選を突破し地区予選に進出。今回は過去2番目の好成績となった。

松木理事長(右から3人目)、川合会長(同4人目)、甲斐選手(同5人目)、佐々木学長(同6人目)、バレーボール協会の役員と本学の関係者



日本バレーボール協会 川合会長らが来学

10月のFIVBパリ五輪予選ワールドカップバレー2位となり、2008年北京五輪以来となる自力での五輪出場を決めたバレーボール男子日本代表。本学からはバレーボール部の甲斐優斗選手(経営2)が日本代表の一員として勝利に貢献した。11月15日、日本バレーボール協会の川合俊一会長ら3人が神田キャンパスを訪れ、松木健一理事長、佐々木重人学長らに、これまでの協力への感謝を伝えた。

- 柳裕治商学部教授
日時：12月19日(火) 2時限目(10:45~12:15)
場所：神田キャンパス301教室 ※対面
- 加藤浩平経済学部教授
日時：1月19日(金) 2時限目(10:45~12:15)
場所：生田キャンパス511教室 ※対面
- 熊木洋太文学部教授
日時：1月19日(金) 15:00~16:00
場所：未定 ※対面・オンライン(予定)
- 梶田龍三商学部教授
日時：2月3日(土) 14:00~16:00
場所：神田キャンパス10031教室 ※対面・オンライン

最終講義のご案内

く、今後も全学を挙げて支援していくと返した。会談は終始和やかな雰囲気、川合会長が「日本初の、レシーブがうまい大型サイドアタッカーになってほしい」と甲斐選手への期待を語り、佐々木学長からも賛辞が送られ、同席した甲斐選手は笑顔で応じていた。

環境会計各論 生物多様性の会計、自治体の環境会計 植田敦紀 著

環境会計論については2000年代に文献が多数刊行されているが、本書ではこれまで会計対象として研究が希薄だった生物多様性の会計、及び筆者が居住している川崎市水道局の事例を取り上げ自治体の環境会計について論述している。

著者(うえたあつき) 商学部教授。会計学、サステナビリティ会計研究。